

歴博 ぐらしの植物苑だより

第92回 ぐらしの植物苑観察会 7月22日(土) 13:30~ ぐらしの植物苑

『植物をめぐる禁忌』 篠原 徹 本館民俗研究系

第9回 日本の植物文化を語る 8月26日(土) 13:30~ 本館講堂 入場無料

『近世の園芸文化—その仕掛け人と作り手—』 小笠原亮 (江戸園芸研究家)

見どころ 畑 トウガラシ ウド カボチャ 温室 メロン

樹木 ザクロ アマチャ アジサイ クチナシ ムラサキシキブ

ナンテン 果実 ソシンロウバイ ウメ スモモ ビワ

草本 アサザ スイレン スカシユリ ゴボウ ハンゲショウ

①ラッカセイ (マメ科ラッカセイ属)

マメ(子実)を食用あるいは油を取るために栽培される1年草。葉のつけ根に黄色の小さい蝶形花が咲いていますので、しゃがみこんで御覧下さい。数日後、花の基部が地面に向ってのび、地中で結実します。ラッカセイは枝が立ちあがる立性と、横に這う匍匐性との2種があります。秋の収穫時には地下に実った落花生を御覧いただけだと思います。



②トウガラシ (ナス科トウガラシ属)

本来は熱帯では常緑の低木ですが、温帯では1年草として栽培されています。果実部を食用にしますが、品種によって長さや形状・大きさが極端にことなります。トウガラシは名のように辛味を持つものが普通ですが、野菜として利用されるピーマンは甘味種といます。写真は日光トウガラシという品種で、ほかに苑内には、万願寺トウガラシ、葉トウガラシ、伏見トウガラシがあります。



③ホップ (アサ科カラハナソウ属)

雌花をビール醸造に利用する、雌雄異株のつる性の多年草です。受粉すると芳香が失われるので、栽培されているのは雌花ばかりです。雌花序は50位の小花が集まって、松かさ状の房(毬花)となります。ビール用には8月下旬につるごと切り落とし、毬花を乾燥させ出荷します。



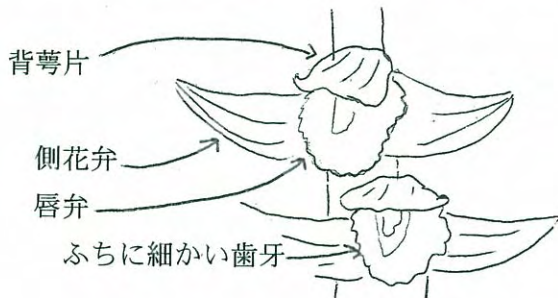
④クララ (マメ科エンジュ属)

日当たりの良い山野に生える多年草。多数の蝶形花が茎の先端に穂状につきます。根を乾燥したものを苦参とよび、それを噛むと目がクラクラするほど苦いそうです。エンジュは花が蝶状花で円錐花序となります。



⑤ネジバナ (ラン科ネジバナ属)

日本全土の低地に分布し、右または左巻に多数の花をつけます。小さい花ですが、よく見ると、花は横向きに捻れて咲き、桃紅色の背萼片・側花弁はかぶと状に重なり、下につきでた唇弁は白色と、なかなか美しい形をしています。(作図しています)



⑥ハンゲショウ

暦の上では7月2日が半夏生になります。花序も随分大きくなり葉も白くなりました。(作図しています)



上部の葉腋から花穂を出し

小さな花を
たくさんつける



始めは下垂しているが開花するにつれ、立ち上がってくる

[拡大]

4個に分かれためしべ



おしべ6個

- ①ラツカセイ
- ②トウガラシ
- ③ホップ
- ④クララ
- ⑤ネジバナ
- ⑥ハンゲショウ

